

令和５年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業			評価欄 B
協働事業者	NPO 法人セカンドリーグ茨城	市担当課	市街地整備課	
事業の概要	本事業は、まちを体験するイベントやワークショップ等を通し、泉町のパブリック空間活用の方策等を計画段階から市民との協働により検討を進める。事業運営にも市民の参画を促すことで、市民の地元に対する愛着を育み、持続的で魅力的なまちの形成につなげる。 令和5年度は、水戸芸術館と新市民会館の間を通る幹線市道4号線及び歩道にて「Mitori0 みちあそび&ファーマーズマーケット」を春と秋に開催し、約4600人が来場した。人工芝を敷いて椅子等を用意し、Tシャツアート展や道端書道、道端図書館、昔あそびコーナー等を設け、様々な人の居場所や交流場所となる空間を創出した。			
委員会意見	本事業は、Mitori0を活用し、市民が集まり賑わうイベントを市民主体で開催した。6月は水戸芸術館で開催されるアートタワーマーケットと同時に開催し、11月はMitori0 フェスティバルの共催として開催した。また、泉町周辺のパブリックスペース活用プロジェクトを検討するワークショップを実施し、利活用の運営に関する市民プロジェクトの立ち上げにかかる準備も行うことで今後の可能性を広げた。 令和5年度は、近隣のイベントとコラボレーションすることにより、単独での開催時と比較して来場者数が増加し、多くの交流を生み出した。水戸まちなかフェスティバルのように道路を封鎖して開催するイベントは、関係機関との調整が必要であり、大変な労力を要するが、開催場所を限定的にしたり、規模を拡大したりと工夫を凝らし、今後もより多くの市民や団体とのつながりを創出して連携を図りながらイベントを開催していただきたい。 決算報告書については、駐車場代を交通費として計上していることは相応しくないため、駐車場使用料として明記していただきたい。 本事業の最終年度であった令和5年度を終えたが、引き続き、市や関係団体と連携を図りながら、イベントを拡大していただき、市民活動団体と行政双方の強みを生かした市民参画によりパブリックスペースの利活用を図っていただきたい。			

令和５年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	キッズトレイルランニング大会		評価欄 A
協働事業者	株式会社ナムチェバザール	市担当課	農政課
事業の概要	本事業は、トレイルランニング大会を開催し、森林公園の自然環境をより身近なものとして、こどもたちの教育及び健康増進に活用し、優れた環境を次世代へつないでいく礎を築いていく。 令和5年度は、水戸市森林公園にて開催し、95名の小学生が参加し、95名全員が完走した。市内小学校へチラシ13,000枚を配布し、ホームページやSNSでの広報に取り組んだ。参加エントリーはチラシ等のQRを読み取ることでエントリーフォームを送信する形式を採用し、申込管理のペーパーレス化を促進することで、環境負荷の軽減を行った。また、今大会から、待ち時間に参加できる体験として、公園内にあるどんぐりや松ぼっくりなどを使った木工クラフト教室を開催し、自然環境を身近に感じていただくきっかけとした。		
委員会意見	本事業は、森林公園の持つ豊かな自然環境を活用し、豊かな自然の中で身体を動かす楽しみを通して、こどもたちの環境マインドを醸成するとともに、健康増進に寄与することに加え、本公園の地域資源としての魅力を広く発信する事業である。 令和5年度については、天候にも恵まれ、こどもたちが森林公園の自然を体感しながら元気に走ったり、木工体験を行う姿が印象的であった。 参加者のアンケート結果について、93パーセントは「また走りたい」と感じているにも関わらず、82パーセントの参加者が新規であったため、リピーターが少なく感じる。小学校高学年は継続参加が厳しいが、低学年のリピーターも少ない点から、トレイルのコースにバラエティを持たせても良いのではないかとと思われる。また、森林公園まで保護者の送迎が必要になる場合は保護者の都合や、習い事などの都合で不参加となってしまったことも考えられる。参加をきっかけにして、大会が開催されていない時にもまた行ってみたいと思う人を増やすことが大事である。なお、木工体験は事前にチラシなどで広報がなかったため、合わせて宣伝することでリピーターを増やせるのではないかと考えられる。 令和6年度が協働事業最終年度となることを踏まえ、こどもたちに自然体験の機会を提供できるよう、引き続き市担当課と情報共有を図りながら、更に事業を発展させていきたい。		

令和5年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	子どもの新たな体験活動の創出と地域の再発見		評価欄 B
協働事業者	特定非営利活動法人ひと・まちねっとわーく	市担当課	生涯学習課 教育研究課
事業の概要	本事業は、新型コロナ等の影響による子どもの体験活動不足を解消するため、水戸市内での体験活動の場の創出や新たな体験活動の機会を増やすことで、こどもの主体的な活動の場の提供、コミュニティの活性化、水戸市少年自然の家の利用率向上を図る。 令和5年度は、水戸市内の5校の小中学校で実施した。こどもたちが5人程度のグループに分かれ、水戸市内の企業、団体、施設等を訪問し、それぞれ主体的に決めたテーマに沿った調査や体験を行った。		
委員会意見	本事業は、こどもたちが体験活動を主体的に行い、地域の企業や団体が体験活動の場づくりをすることで、さらなる地域コミュニティの活性化を図る事業である。新型コロナウイルス感染症の流行から学校における体験活動の機会が縮小した中で、学校単体では実施できない事業を行ったことは大変意義深い。 令和5年度は、水戸市内の5校が参加しており、参加した児童が主体的に行動し、とても生き生きしていたことが印象的であった。児童にとって記憶に残る大きな経験となったことに違いない。水戸市内だけでなく、水戸市外の学校でも開催されており、事業が波及していることが分かる。 一方、事業の実施に当っては、近年問題となっている学校の教員の労働の負担をより増やしてしまったのではないかという懸念がある。今後、自主事業として事業を持続可能とするためには、より学校側が受け入れやすくなるよう、教員の負担を最小限にしていきたい。 令和6年度は、わくわくプロジェクトとしての継続には至らなかったが、学校や企業などと連携を図り、水戸市を起点として茨城県内で広域的に事業を拡大するという展望を実現していきたい。今後もこどもが主体的に活動する機会を創出する事業が広がることを期待する。		

令和5年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」		評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人 ちいきの学校	市担当課	高齢福祉課
事業の概要	本事業は、高齢者ドライバーによる事故、免許返納問題、免許更新時の認知機能検査などに対して不安を抱えている方が数多くいるため、65歳以上の市内居住の方を対象に、全6回の専門家によるトレーニングや認知力測定等の講座を実施し、身体的機能（筋力、反射力、柔軟性）や認知機能など運転に必要な能力の維持及び向上を図る。 令和5年度は、新聞への折り込みチラシや市報、SNS等の広報を行い、水戸市役所やいきいき交流センターあかしあ、下入野健康増進センターにおいて、全6回の講座を年に3回実施し、計37名が参加した。		
委員会意見	本事業は、運動を通して高齢者の運転に必要な身体的機能や認知機能の維持を目的に開催している。 令和5年度の当初計画では、講座の開催は2回の予定であったが、1回追加となり、合計で3回開催された。制作された動画に映っていた参加者の楽しそうな表情が印象的であった。 一方で、水戸市内の各市民センターで開催しているいきいき健康クラブの体操など、市内で開催されている既存の健康推進事業と類似している部分がある。ドラサポで使用しているバランスボールやストレッチポールは用いられていないが、市の事業と連携することによって、可能であれば無料で市民が参加できるようにすることを検討していただきたい。 また、ドラサポは定員を増やすことができない現状であるが、市の健康増進事業にも人数制限があり、抽選で外れてしまうことがあるので、希望者が全員参加できるようになることが理想的である。 広告宣伝費について、市報への掲載を見送った経緯があるということだが、動画の作成に18万円も支出する妥当性があったのか疑問である。動画を見てもらう機会を増やせるよう更なる工夫が必要である。 令和5年度は、事業2年目で市担当課と連携を図りながら、事業が実施されたことが分かった。令和6年度以降も引き続き市担当課と連携を図りながら、計画にのっとり活動を行っていただきたい。高齢者対象の健康増進事業として工夫の余地があるが、市の関連事業とも連携を図りながら、高齢者ドライバーをサポートする事業のモデルとなるよう更なる発展を期待する。		

令和5年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業			評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート	市担当課	生活安全課	
事業の概要	本事業は、空き家所有者の負担軽減を目指し、空き家に関する諸問題の相談に応じ、適切な助言や提言を行い、空き家の適正管理、利活用に関する支援を行うことで、地域の活性化と地域住民の不安を解消し、安全に安心して住むことができるまちづくりを目指す。 令和5年度は、相談窓口において、空き家に対する管理や売買等の対処方法の提案、現地調査や専門家への取り次ぎを実施するとともに、空き家の定期点検や草刈り代行などの適正管理、利活用に関する支援を行った。市報への広告掲載やチラシ作成により、空き家所有者等からの58件の相談に対応した。			
委員会意見	本事業は、空き家に関するワンストップの総合相談窓口を通して、空き家所有者や、今後、空き家を所有する可能性のある方へ、適切な助言や提言を行い、空き家の適正管理や利活用に関する支援を行う事業である。 令和5年度は、非常に多くの空き家に関する相談を受けており、一件一件丁寧に対応されていることが分かる。分析もしっかり行われており、ニーズに沿った対応が相談者の安心につながっていると考えられる。 広報については、市報掲載に大半の費用を支出しているため、限られた予算を有効活用できるよう検討していただきたい。 また、チラシは分かりやすく作られているが、特殊詐欺と間違われないようにするため、下欄に水戸市役所担当課の協力の表記を加え、水戸市の協働事業であることを目立たせることで市民からの問合せにつながりやすくなると考えられる。空き家は所有者の大事な資産であるため、市の表記を目立たせることで市のワンクッションが入り、安心して相談できるように導いていただきたい。 空き家問題は全国的に増加しており、深刻な社会問題となっている。令和6年度は協働事業2年目となるが、空き家に関する活動を行うNPOのモデル事業として、引き続き空き家所有者の問題解決や不安解消を行っていただきたい。			

令和 5 年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	公園にハートいっぱいの種を蒔こう		評価欄 B
協働事業者	NP0 法人 Happy リレーいろいろ	市担当課	公園緑地課
事業の概要	本事業は、千波公園少年の森において、フードバンク、子ども食堂の実施、清掃活動、公園で遊ぶ子どもの見守りなどの社会貢献活動を通して、公園と地域をつなぎ、多世代交流が図れる公園づくりを目指す。 令和5年度は、防災啓発活動72回、炊き出し訓練56回、フードバンク水戸・フードロス啓発活動225回、ゴミ分別活動126回、みとちゃん朝市12回、ひとり親フードパントリー・相談支援127回等の公園活動を実施した。年間延べ1,000人以上のボランティアが参加し、1日当たり約300名から1,000名が来場した。		
委員会意見	本事業では、千波公園少年の森において多岐にわたる活動を展開し、公園の安全と景観を維持しているだけでなく、子育て世帯を支援し、イベントを開催することで市民の交流の場を創出している。 提案団体が週末だけでなく平日も活動をしている姿が印象的であり、イベント開催時の見守りや、こどもの怪我の対応など、熱意溢れる活動が安全で安心なまちづくりにつながっている。3年間にわたり市担当課と連携し、多くのボランティア団体や関係者との交流を図りながらバラエティに富んだイベントを開催したことは、こどもの居場所づくりに貢献しており、一定の評価に値するものと考えられる。今後も多世代の交流を生み出す事業を発展させていただきたい。 昼夜を問わず、公園活動に一生懸命取り組む姿勢に改めて感謝申し上げるが、全国的に働き方改革が進められていることから、ボランティアは日常生活に支障のない範囲で無理なく続けることが大事である。 本事業最終年度であった令和5年度を終えたが、今後も市担当課や関係団体との連携を図り、こどもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいただきたい。また、公園における社会貢献活動を継続し、引き続きより魅力的な公園づくりに貢献することを期待する。		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月28日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見交換を行った。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート、並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×6人＝120点満点

			採点基準
A	評	価	90～120点
B	評	価	60～89点
C	評	価	30～59点
D	評	価	0～29点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見直し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5